

# 弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科  
土屋 陽子

作成日 2024年1月31日

## 1. 教育の責務

<p>2019年度から弘前学院大学看護学部看護学科に採用され、本年（2023年）で5年目となる。看護学科目を担当し、成人看護学のうち慢性期看護を中心に、講義、演習、実習科目を担当している。</p> <p>また本年度以前に担当した授業科目には次のものがある。</p> <p>1. 基礎演習（講義担当）1年</p>				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
ソーシャルスキル	1年	講義 演習	前期	社会意識、コミュニケーションスキル、グループダイナミックス、グループワーク運営
プライマリーヘルスケア 実習 I	1年	実習	前期	病を持ちながら地域で生活している人々の生活の実際を知る
成人看護学概論	1年	講義	後期	成人期の特徴、健康問題とその予防、急性期・慢性期・終末期にある人々への看護
成人看護学Ⅱ	2年	講義	前期	慢性の病いを持つ人々の理解とその看護支援
緩和ケア論	2年	講義	後期	緩和ケアの概念、緩和ケアを必要としている人々への看護支援
成人看護学実習 I	3年	実習	後期	病いを持ちながら生活している人々、およびその家族の療養生活支援に必要な実践能力を養う
	4年	実習	前期	
看護統合実習	4年	実習	前期	領域別実習で培った看護実践能力を統合し、自らの探求課題をもち、自主的に看護を計画実践する
卒業研究	4年	演習	通年	自らもつ看護への興味・課題をさらに深める方法を模索し、計画的に論文にする課程を学ぶ

## 2. 教育の理念

国民の健康寿命を延ばし、高齢社会の進行を支える我が国の保健医療制度のなかで、看護師としての責務を果たすということは、看護師国家試験に合格し、看護師の資格を有することが最低条件となっている。その資格を得て初めて、看護師としての責務を果たす一端を担える基礎を築き、その後の看護師としての成長を続け、我が国の保健医療に貢献することができる。その国家資格を得るための看護基礎教育のなかで占める成人看護学の重要性は、我が国の国民の疾病構造を考え、その保健医療を受ける対象者が増大している状況を考えると、大変重要な領域の教育を担っていると考えなければならない。私は、それを踏まえて、大学における看護基礎教育の重要な一端を担っているという自負を持ち、永年にわたる看護教育を成人看護学領域で実践してきた。

世界的にみて高齢化率の高い社会情勢、高齢者だけでなく若年層、中年層にも広がっているいわゆる生活習慣病の拡大、それによる合併症の進行・重症化が、国民総医療費の増大にも大きく影響しており、大きく考えると、国家としての存亡にも関わってくると思われる。そのような状況のなかで、成人看護学は、看護実践のなかでも、大変重要な領域であるにも関わらず、看護援助を実践するには永年培ってきた援助対象者の容易に代えがたい生活習慣を変えたり、一生付き合う病気に向き合う気持ちを確実にしていく看護援助としては難しいものが求められている。そのためには、常に新しい専門的な知識・援助技術を身に付けていく姿勢が求められているだけでなく、対象者への「愛、すなわち人を慈しむ心」が欠かせない。その基礎的な看護を身に付ける領域としての成人看護学、そのなかでも、特に慢性看護学を中心に、大学における看護基礎教育を担当している。

## 3. 教育の方法

1. 成人看護学概論、成人看護学Ⅱ：我が国ひいては世界のあらゆる世代にわたる、健康問題を考える基礎的知識をもち、成人対象に援助するとは、どのような知識、技術が必要とされているかを講義・演習を通して得られるよう努めている。そのために常日頃問題となっている健康問題や、患者の療養等の体験記も読み進められるよう、教科書の提示だけではなく、副読本や新聞等の記事も提示し、理解できるよう進めている。成人を対象にその家族も含めて、広い対象を援助するために効果的な健康・疾病に関する知識・技術、並びに心理・社会的問題を解決するための理論、考え方を紹介しつつ、初歩的な心理学・社会学領域にも踏み込んだ授業を展開できるよう努めている。
2. 成人看護学実習Ⅰ：慢性期・老年期の患者及び患者家族を対象に、看護過程を展開し、患者家族の健康回復への援助、セルフケア教育の実践指導・教育、場合によっては死を免れない人々への援助も含んだ実習となっている。
3. 統合実習：現在担当中の統合実習の場としては、緩和ケア病棟における死を免れない状況にある患者及びその家族を対象としている。そこにおいては、多職種連携も視野に入れながら、4年間の看護教育実践の集大成という考え方で、卒業後の看護実践を想定した実習が体験できるよう、病棟看護師と教員を中心に連携した実習を展開している。

#### 4. 教育の成果

1. 授業評価は昨年度までに、一科目のみしか結果が来ておらず、結果の客観性としては、弱い状況にあると言える。  
ただ、日頃の学生（1,2年次学生）の反応としては、授業は理解することが難しい科目と認識している学生が多いように見受けられる。
2. 一方、実習を終了した学生（3,4年次生）の反応、記録等を見ても、授業で重点をおいて教授している内容については、その重要性を実感、体験した結果を実習記録・レポート等に記述できており、成人患者への看護実践の難しさを実感しながらも、実践による患者・家族等の変化をつかみながら、看護実践の手ごたえ、やりがいも感じていることが伺える学生が多いと考えている。
3. 今後もなお一層、実践の場での、授業等の振り返りも行いつつ、臨床に出るようになった場合の振り返りができるような実習体験を積み重ねていけるよう、実習指導につとめていきたいと考える。

#### 5. 教育の改善

1. 成人看護学実習全般にいえることであるが、領域の特徴として、覚えて理解しなくてはいけない新しい知識・技術、さらには復習を要するものも多いと感じている学生が多いようである。「この実習までにこんなに勉強したことはない」「記録が多くて、眠る時間を削らざるを得ない」等、実習の過重負担を訴える学生が多いと見受けられる。
2. 対策としては、具体的に活用できる資料等のこれまで以上の提示や、臨床看護師や教員がロールモデルとして実践した場合の、実践内容の振り返りをこれまで以上に時間をかけて行う、援助の意味をかみ砕いて学生が理解できるまで確認する、さらには実習場において、記録の概要をその日、その場で確認する等、更なる指導上の工夫が求められていると考える。

## 6. 教育の目標

1. 成人看護学実習要項にあげている到達目標を可能な限り達成できるよう、学生一人一人の実習に臨む姿勢や実践状況を学生と共に確認する。
2. 学生の目標達成状況に合わせて振り返りができるよう、その学生の理解度、実践レベルに合わせて、できているところを十分認めて、その点を本人に伝えつつ、実習の成果ややりがいを感じられるようにする。

### 【資料】

1. 成人看護学実習要項